

中小企業 前へ

市場創造編 第2部

成長

「働き方」「新分野開拓」に力

放送タレント永六輔の言葉を引用し、自分の経験も踏まえて、仕事に通じる人生訓を伝えた。

「工場の稼働が落ちてい

るが、何をすべきか」「上司の意見に流されてしまう。どうしたらしっかり発言できるか」。社員が次々に質問し、福井は一つずつ丁寧に答えていった。稼働が落ちたという工場には後日足を運び、従業員と話し合う場を持ったという。

「働き方」ということは、借りを返していくことだ。何かに挑戦しようとするとき、人の力を借りることを恐れないでほしい。福井は冒頭で、2年前に他界した

8月20日の正午。三和テクノ（神戸市長田区）の会議室に、若手社員ら約15人が集まった。社長の福井和郎（71）と弁当を食べながら、約1時間半語り合う昼食会。入社2年目から40歳未満の社員を4班に分けて月1回開く。

「生きる」ということは、借りを返していくことだ。何かに挑戦しようとするとき、人の力を借りることを恐れないでほしい。福井は冒頭で、2年前に他界した

「私と話をすることで、会社のことを理解してもらおう狙いがある」と話す。

「私と話をすることで、会社のことを理解してもらおう狙いがある」と話す。

福井はこの10年来、働き

やすい職場づくりに力を入

れる。有能で将来性を見込

んでいた若手社員が辞め、

東証1部上場企業に転職し

たことに心を痛めた。待遇

を改善提案に対し、福井

社長（左端）から奨励金

を受け取る女性社員（い

ずれも神戸市長田区対漢

通7、三和テクノ

（右奥）

「5年

先

会社

の

や職場環境の不備を理由とする退職者をゼロにする目標を掲げた。年間休日を123日と手厚くし、非正規雇用を正社員に順次転換す

る。「一人でも多くの人と、一日でも長く働く」との思いがある。リーマン・ショックで従業員を削減する動きが広がったときも、雇用を維持した。

従業員が安心して働ける環境を整えたことで、業績は右肩上がりだ。18年9月期の売上高は初めて30億円の大台を超え、本業のもうけを示す営業利益も過去最高を見込む。

さらなる成長を目指した投資も怠らない。中心的な役割を担うのが約10年前に設けた研究開発室だ。「5年先の仕事づくりを旗印に、会社を次世代につなぐための布石を打つ。かつてOA機器大手から受注できると確信した低価格機用のシール材を他社に奪われ、技術

載

予

定

す

。

。

。

。

。

。

。

を生かしていない」と痛感。福井自らが「第1号研究員」となり、優秀な技術者も迎え入れて製品開発に励んできた。

今は、医療機器や自動生産機器など新しい分野への参入を狙う。無数の糸を織り込み、吸収力のあるパイ

ル生地の特性を応用。潤滑油を含ませて工作機械などをスムーズに動かす「グリス保持材」などを大手メーカーと開発中だ。自動車やOA機器以外の世界に、われわれの技術を展開したい」と力を込める。

取引先への改善提案を通じて、自社を成長させた福井。他に利する「経営哲学は従業員の中に確実に根付いている。」

（敬称略）

（大島光貴）

第2部おわり

第3部は、ノリ製造販売の「鍵庄（明石市）」を取り上げます。今月下旬の掲載予定です。

。

。

。

。

。

。

。



①昼食会で若手社員らと語り合う福井和郎社長（右奥）
②改善提案に対し、福井社長（左端）から奨励金を受け取る女性社員（いずれも神戸市長田区対漢通7、三和テクノ）

部
品
メ
ー
カ
ー
三
和
テ
ク
ノ
4